

国際協力セミナー 「国連を通して見た 国際社会の中の日本」

「北海道国際協力フェスタ2000」に併せて、今年、国際連合広報センター（東京）所長に就任された高島肇久氏を講師に、10月28日（土）午後1時からファクトリーホール（札幌市中央区）で開催した。



国連と日本との距離

最近の世界情勢からホットな話題を紹介しながら、「世界人権宣言」（1948年発布）に始まり、国連の「国際婦人年」（1975年）が日本の女性の地位向上に関する法律の制定にとって後押しになったことなど、国連のしてきたことが日本にとっていろいろな場で役に立っていること、また、現在、日本

は豊かな国になって国連に対して分担金、PKO経費など併せて国民一人あたりが年間400円を払っていることになる訳で、その意味でも実際に国連がしている仕事に関心をもっていただけるのではないかと問いかけた。

「人間の安全保障」

設立以来、国と国との戦争を起こさないことに主眼を置いてきた国連は冷戦終了後の民族や部族の対立、宗教の対立に対しては積極的に武力介入して収めようとしてきたが、内政干渉という批判も生じていたところに、国連開発計画（UNDP）が「人間の安全保障」という概念を打ち出した。これは、争いの最大の原因となる貧困、差別、敵対心などを取り除くことに国際社会全体が協力しようということで、日本は「人間の安全保障基金」を設けて資金を拠出し、すでに、アフリカでの学校建設、南米での疫病対策、アジアでのエイズ対策などプロジェクトを開始して積極的に国連の仕事に参加していることが国連で評価されていることを例に、日本が国連の仕事で主導権を発揮することを国連が強く願っていると話した。

国連職員として活躍して欲しい

世界が抱えている環境保全、貧困や病苦の克服から開発の問題まで国際的な取り決めをするための国連の様々な機関が取り組んでいるプロジェクトに日本が協力していくことは国際社会の中における日本の新しい地位を築く原動力になるとの考えを披露した。

さらに、現在、国連で働く日本人職員は111人とまだまだ少なく、日本の財政的な貢献度からいうと259人位はいて

も良いという。国連職員は世界のために働くのではあるが、一人でも多くの日本人が国連はじめその付属機関で働き、その経験や知識をもとに日本が国際的に発展していけば嬉しいと、特に会場の若い聴衆にエールを送って2時間の講演を終えた。

同講師は、翌日、滝川市で開催された社滝川国際交流協会主催による、同市派遣の「ジュニア大使訪問団



激励を受けたジュニア大使たちの報告（滝川市役所で）

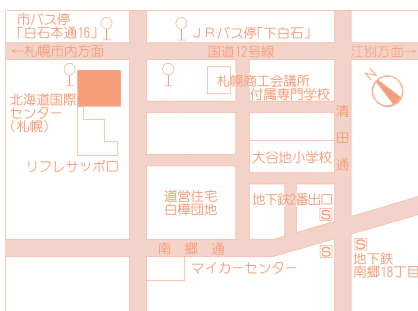
（第11回目）」のアメリカ研修の報告会に先だって地元の経済人などを対象に講演。世界の最新情報を例に、「日本は、今抱えている問題を先送りせず優先すべきことに立ち向かわなければならない」「今の日本が再生するためのフロンティアは地元にある」など勇気をもって本質を見極めることが必要であると熱意をこめて語った。

後半、訪問団の高校生たちには「初めて海外で得た感動を大切に、将来、日本のこと、海外のことをしっかり考えられる人になって下さい」と激励し、同協会の関係者を感激させた。

高島 肇久氏 プロフィール

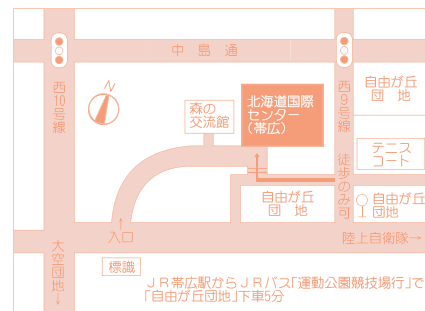
NHKの特派員、ロンドン支局長、報道局長、海外企画局長などを歴任、「ニュース21」のアンカーマンとしても知られる。今年9月に国際連合広報センター（東京）初の日本人の所長として就任。

（北方圏センターは、北海道国際センターの管理運営を委託されています）



北海道国際センター（札幌）

〒003-0026 札幌市白石区本通り16丁目南4番25号
TEL 011(866)8680 FAX 011(866)8425



北海道国際センター（帯広）

〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL 0155(35)2161 FAX 0155(35)2213

本紙の送付をご希望の方、また各地の情報やご意見など下記宛にお寄せください。

国際協力情報紙「であい」第19号

発行日・2000年12月5日

発行・社北方圏センター 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道庁別館12階
TEL011(221)7840 FAX011(221)7845 <http://www.nrc.or.jp>

E-mail address pbl@nrc.or.jp (出版部) into@nrc.or.jp (国際協力部)

発行者・曾根 勇治 印刷・株総北海



Northern Regions Center (NRC)

社団法人 北方圏センター

Japan International Cooperation Agency.

国際協力事業団北海道国際センター